

北海道開発の将来展望に関する意見交換会 議事要旨

日 時：平成 26 年 11 月 11 日（火） 14:00～17:25

場 所：札幌市教育文化会館 研修室 305

参加者：【出席者】北海道経済連合会 大内会長、
北海道商工会議所連合会 知見常議員・地域開発委員長、
北海道 高井副知事、札幌市 井上副市長、ニセコ町 片山町長、
（株）エフエムもえる 佐藤代表取締役社長、
北海道大学 クリーン准教授、
（有）インタラクシオン研究所 安田代表、
中札内村農業協同組合 山本代表理事組合長
【委員】田村座長、上村委員、山崎委員
【国土交通省】澤田局長ほか

次第

（１）開会

（２）内容

- ① 意見交換会出席者からの活動や取組の概要紹介
- ② 有識者懇談会における議論の概要紹介
- ③ 意見交換会出席者からの将来展望に関する意見及び今後の開発計画や開発行政に対する期待

（３）閉会

主な発言内容

意見交換会出席者から活動や取組の概要紹介が行われ、田村座長から有識者懇談会における議論のとりまとめ概要について、資料 2 に沿って説明がなされた。その後、北海道開発の将来展望に関するとりまとめ（案）及び今後の北海道総合開発計画や北海道開発行政について、意見交換が行われた。

○北海道開発の将来展望に関する主な意見

- ・ 食料自給率の向上、食料供給力の確保は重要。十勝管内の 24 農協はさらに生産額を伸ばす目標を持って取り組んでいるところ。生産現場としてしっかりとした農畜産物を消費者へ提供するため、責任と義務を感じ取り組んでいる。
- ・ 十勝の高品質で安全・安心な農畜産物をより多くの消費者に知っていただき、選ばれる産地を目指して、十勝農業のブランドイメージを高めることが重要である。現在、24 農協の地域を「十勝ごちそう共和国」として PR を開始したところ。
- ・ モスクワには北海道ファンが多く、農畜産物等の輸出も念頭に、北海道とモス

クワとの関係強化を考えていきたい。

- ・ サウジアラビアでは、枝豆は高級品となっている。国・北海道の協力を得て、サウジアラビアへの枝豆の輸出を促進していきたい。
- ・ 「対流」は、力強さを感じさせ、幅が広く奥の深い、良い言葉という印象。
- ・ 文化交流については、アイヌ文化の振興を通して、世界の少数民族とのつながりを持つことが必要。
- ・ 技術交流については、農業、水産業、上水道や下水道などの水処理技術、廃棄物処理技術、医療などは、地域の活性化につなげることができる。世界に役立つ北海道を目指すべき。
- ・ 北極海域の交流を見据えた取組が必要。北極海航路によって北海道とロシア、北米との距離が縮まる。長期的な視点で考えていくことも必要。
- ・ 農水産品の生産額は、道東地域に比べ、北海道西部、日本海側は小さい。西部、日本海側の農業をどうしていくかを考えることが必要。富良野のラベンダーのように、ニッチな農業、農産品を考え、西側も東側も生き残っていかねばならない。移住者も呼び込めるかもしれない。
- ・ ICT を活用して女性農業者の負担軽減を図れば、ワークライフバランスの改善につながる。
- ・ 美味しいものを食べるために、わざわざ地方に行くことは、ヨーロッパ人にとっては魅力的なこと。過疎をデメリットではなく、メリットとして考える発想を提唱したい。北海道の広いスペースとのんびりした生活は、ライフクオリティの向上につながる。
- ・ 現地独自の素材を活かしながら海外の調理法で作るなど、付加価値をつけて新しいものを作るなど、付加価値をつけて新しいものを作る「グローカリズム」は、過疎対策に有効。
- ・ 北海道では、本州産や外国産の食料品が多く流通し、北海道の食料供給力のメリットが活かされていないと感じる。新鮮で美味しい魚や野菜があるのだから、もっと地元の産品を使用すべき。
- ・ 食生活と健康管理の意識を高めるべき。
- ・ 北海道から働き方の改善を発信し、ワークライフバランスを実現してはどうか。
- ・ 地方にも人が住むべき。人が地方に住み続け、それぞれの地域が多様性を持つことが、北海道、国全体の魅力を高めることにつながる。地方の多様な人材が、都市に出て都市を支えている。
- ・ 地方においては、人口減少よりも人口流出が致命的な問題。しかし、地方に引き留めておけばよいというものではなく、「ダム機能」表現は消極的と感じる。上流に行けば面白いことができるかもしれないという、「逆流」のマインドを作ることが必要。

- ・ 楽しく暮らすことが重要。地域は、外部からの評価をしっかりと受けるとともに、その情報を内部で共有・循環させ、発信することが必要。
 - ・ 何をどうやって安心して暮らすのか、どのようにアプローチしてくのかを考えることが必要。何人以上人口がいないと病院を置けないという発想は、疑問。
 - ・ 社会インフラの大切さにはなかなか気づかない。平時における食料やエネルギーの移動はもちろん、被災時でも地域の地勢や住民の特性をよく知る土着の建設業は地域の安全保障に欠かせない存在である。公共事業を削減すればよいということではなく、社会資本を整備するプロセスを地域とともに考えていくことが必要。
 - ・ 出ていきたいと思う 1 万人の町よりは、ここに住み続けよう、住んでいたいと思う 1000 人の町の方が良い町になる。
-
- ・ 1988 年に多極分散型国土形成促進法が成立し、省庁、大学などの東京一極集中の是正が検討されたが、その後動きが中断して現在に至っている。その状況を検証し、今後を活かしていくことが必要。
 - ・ 水、空気、食の安全が北海道の魅力と言われている。「雪や寒さの強み」が記載されているが、夏の素晴らしさについても目を向けるべき。
 - ・ 「国際会議等（MICE）の誘致の活発化」について、小規模な MICE への支援についても考慮いただきたい。
 - ・ 参考資料に「道の駅」の観光拠点化や防災機能の記載があるが、「道の駅」のまちづくりの機能の強化についても必要。
 - ・ 道路の維持経費が削減され、除草もままならないが、リゾート地としての最低限の維持管理は必要。
 - ・ シーニックバイウェイの強化も必要。
 - ・ 農林水産省の多面的機能支払事業は、農村コミュニティの維持に大きな役割を果たしている。このような取組は、住民自らの力による地域づくりの意識の醸成につながっていく。
 - ・ エネルギーの活用について、温泉熱発電は将来の北海道の地域づくりに重要。
 - ・ 二地域就業は、通年の安定的な雇用を生むと考える。計画にもそのような考え方が入れればありがたい。
-
- ・ 雇用確保のためには、労働環境の改善が必要。
 - ・ 物流、商流を北海道企業で担っていくことが必要。
 - ・ 経済発展のためには、北海道以外の製品の使用を北海道産品へ変更する、移入代替が必要。実現には、道内の経済連携が重要。
 - ・ 観光においては、空港の深夜早朝の運用の工夫が必要。
 - ・ 国によって観光資源の捉え方は異なる。国別、エリア別の観光戦略が必要。
 - ・ エネルギーについては、北海道を世界的なデータセンターとして売り込んでいくことが必要。

- ・ 北海道の優位性をしっかりと出していかなければならないというのが、この 10 年間の反省。
 - ・ 人口減少対策は、出生率を上げる対策ではなく、雇用の場の確保、医療、福祉、教育、安全・安心への対策が必要。
 - ・ 観光振興のためには、口コミの効果を利用する必要。
 - ・ コンパクト+ネットワークについて、広域分散型の北海道にとってはこの発想が必要。ICT の活用、交通ネットワークの整備によって、地域の魅力を向上させることができる。
 - ・ 食料品の輸出について、国の目標 1 兆円の 1 割、1000 億円を目標としていくべき。
 - ・ 北海道の特性について、地理的優位性を忘れてはならない。北方領土は北極海航路の隘路となる。北極海航路の活用のためには、領土問題も考える必要。
 - ・ 北海道観光の振興のためには、新千歳空港の機能強化は避けて通れない。新千歳空港の深夜早朝の発着枠について、国としても進めてほしい。
-
- ・ 地域経済をいかに活性化し、力強いものにしていくかが鍵。
 - ・ 国がどのような人口減少対策を打とうが、地域に元気がなく、若者の雇用の場がなく低所得となれば、人口減少に歯止めはかからない。
 - ・ 「北海道の人口経済と新たな政策課題の動向」について、人口構造の変化に対応した持続的安定的経済の確立ができなければ地方は消滅する。方向性には同意するが、具体的に何をしていくかが問題。地域の事情は千差万別であり、その点も考慮していかなければならない。画一的で枠にはめるものであってはならない。
 - ・ 「食関連産業の革新」とあるが、農商工連携や 6 次産業化にとどまるのではなく、オランダやデンマークの取組を学び、良いところを吸収していかなければならない。
 - ・ ICT を徹底的に活用すべき。農業を最先端産業にしていくことが魅力的な産業への変革につながる。
 - ・ 農水産物の備蓄を提唱する。長期間の備蓄ではなく、一時的に備蓄して需要に応じて出荷していこうというもの。素材を供給するだけでなく、加工した上で需要に応じて出荷することによって、北海道経済にプラスになる。
 - ・ トラック不足や航空機の小型化などの物流の課題が、コスト増大や需要を減少させている。片荷や季節繁閑の問題も、輸送量の調整が可能になる農水産物の備蓄を推進することにより改善される。
 - ・ 訪日外国人 2000 万人の達成に関し、現状の新千歳空港では貢献することはできない。発着枠、乗り入れ枠、CIQ、案内表示、空港からの各観光地へのアクセスなどが問題。それぞれが対策を検討するのではなく、行政、関係団体、民間が一体となって対応することが必要。

- ・ 空港間の連携が必要。道内各空港と新千歳空港の連携によって、受入の拡大ができないか。インとアウトの両方が新千歳空港である必要はない。
- ・ 観光振興、国土強靱化の観点からも交通インフラは、まだまだ必要。札幌市中心部への高速道によるアクセスを整備することが必要。
- ・ 「目指すべき北海道の将来像」については、まさに理想像として目指すべき姿である。目指すべき北海道の将来像と現状とのギャップを埋める施策、財政措置を計画の中に据えていくことが重要。
- ・ 「脆弱な国土構造の改善への貢献」のエネルギーの安定供給については、安定供給だけではなく、低廉であることも競争力の観点から必要。
- ・ 「多様で活力ある持続可能な地域モデルの提示」については、早期に提示されることを期待。
- ・ インバウンド観光の振興だけでなく、道民のグローバルな視点の向上や海外直行便誘致の観点からも、アウトバウンドの重要性も追加していただきたい。
- ・ 「多様な豊かさの実現」について、どのような多様な豊かさを求めるのか、社会の成熟とは北海道に何を求めていくのか、自己実現や社会貢献の北海道の役割は何なのか、示していく必要がある。
- ・ 「新千歳空港が主要な国際空港の災害発生時の代替空港に」について、港湾の役割も重要であると考えます。
- ・ 交通基盤の整備の充実について、高規格幹線道路は地方の中核都市とも結ばれていない状況であるので、強調していただきたい。
- ・ 新幹線についても明示していただきたい。
- ・ 「共生社会の実現」について、外国人との共生の視点も重要。
- ・ 「地域構造の形成」について、地方における医療、福祉への対応も重要。
- ・ 「人材育成・活用」について、女性の社会参画の拡大も必要。
- ・ 「留学生の戦略的受入」の内容を具体的に記載していただきたい。
- ・ 北海道の地域的課題を、グローバルな視点で捉えなおしていけるかがポイントであると改めて感じたところ。コンテンツとしての北海道の魅力を明確化することが重要。
- ・ フィンランドやスコットランド等の、国際的に人口減少問題の大変な地域と北海道を比較することが必要。
- ・ 優秀な留学生に北海道で就職してもらうための取組を進める必要性を改めて認識。
- ・ 人材の育成・活用とプラットフォームの構築を確実に実行すること、連携・交流をだれがグリップしていくのかを次期計画に書くことができるのかがポイント。北海道開発を推進する人材の育成・活用とプラットフォーム等の体制構築に対する北海道局や北海道の取組に期待。

○今後の北海道総合開発計画や北海道開発行政に対する主な意見

- ・ 北海道総合開発計画は、関係省庁とも十分連携して計画を推進していただきたい。
- ・ 以前に首都機能移転の議論がなされたが、災害が少なく東京に近い地域が便利という発想で候補地が決まったと記憶。東日本大震災の状況も踏まえ、北海道は日本のために貢献する地域であるということの色濃く出すべき。
- ・ 航空機の航路についても北海道のポテンシャルは高い。北海道のポテンシャルの高さについてもどこかに出すべき。
- ・ 今回の懇談会の取りまとめ、次期計画は北海道の発展にとって重要。財政が厳しい中、選択と集中という声が出てくる。道民に趣旨を理解してもらい、地域の役割について情報を共有することが重要。工夫し、より広範なPRをしていただきたい。
- ・ 地域創生には、地方の積極性が必要であると思うが、結果として地域間格差が拡大するのではと懸念を持っている。
- ・ 北海道開発局には、地域の知恵出しにバックアップを願う。
- ・ 訪日外国人観光客の更なる受け入れのために、行政、民間が一体となって取り組むプラットフォームの設置をお願いする。
- ・ 交通インフラがあつてこそ地方創生が実現する。本州、海外との交流は、観光、物流など多方面から考えていく必要があるので、交通ネットワークの整備について検討していただきたい。
- ・ 冬季オリンピックの誘致を念頭に置いていただき、新千歳空港から道内各地・札幌市中心部に向けた都市内交通網の整備をお願いする。
- ・ 丘珠空港について、夜間の利用制限の見直し、滑走路延長問題を含め、国と歩調を合わせた検討を考えている。
- ・ 新幹線の札幌延伸の早期実現をお願いする。
- ・ 未来の子供たちにとって公共事業は投資である。農業、観光のためにも将来にわたってインフラ整備していくことが必要。
- ・ そこに住んでいる人の運動量の総量が地域の活性化の目安。人口や年代構成によって判断することは間違いで、交通基盤を含めてコミュニティの活性化を図ることが地域の活性化につながる。人口などの表面上の数字にとらわれず、計画が策定されることを期待。
- ・ 人脈の紹介や情報の提供など、北海道開発局、北海道庁の振興局には日頃から助けていただいている。当事者意識と公共性を持ち、考えて行動する地元のやる気のある組織や人を見定めていただき、今後とも側方・後方支援をお願いす

る。そのために地域のことをよく知る出先機関がなければ、地域活性は難しい。出先機関である北海道開発局の開発建設部、北海道庁の振興局の存在をもっとアピールすべき。

- ・ 北海道観光はパック旅行など統一されている感があるが、統一的になることは地元にとって良いことなのか。様々なプライオリティーを持っている観光客に向けた北海道観光のあり方を検討すべき。
- ・ スローツーリズムやグリーンツーリズムは、長期的に考えると北海道のためになる。
- ・ 北海道総合開発計画はメニューが幅広く、さまざまな取組があり素晴らしいと思うが、地域を治める基本である治山・治水の重要性を忘れないでいただきたい。
- ・ 防災型のコンパクトタウンを提案したい。普段は地域交流センターとして利用し、災害時には防災センターとして機能する施設ができないかと思っている。
- ・ 農作物の生産性向上のためには、暗渠排水設備や農業用水設備等、農地の整備が必要。
- ・ 5年程前まで開発建設部の協力を得ながら、札幌で農畜産物の販売イベントを実施していた。良いPRの機会であり、再度の実施をお願いしたい。
- ・ リソースが限られている。GDPや人口は頭打ちで、むしろ不足していく状況であるが、この状況を前提にしなければならない。制約のある状況で考えると知恵が出る。
- ・ 成熟社会になったということは、一つの意志で国の方向を一つの方向に向ける時代ではなくなったということ。小さな多数の意志が存在し、その総体としての意志が全体の方向を決める時代になったと理解すべき。主体的に生きる人々をいかに増やすかが重要。
- ・ 中越地震の影響を受けた山古志村は人口が半減したが、農家民宿や農家レストランが増えるなど、まさに対流人口が増え、間違いなく活性化している。人口減少イコール衰退であるという、ネガティブキャンペーンはやめよう。
- ・ 行政はイノベーションを起こせないが、イノベーションの種に肥料を与えることは得意。地域から小さなイノベーションを起こそうというムーブメントが多数出てくる必要があるとあり、それを地方自治体、国が支えていく逆ピラミッドの構図が重要。地域間格差を許容する時代にならざるを得ない。

以 上

(事後修正の可能性あります。)